

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272700949		
法人名	株式会社ゆとり		
事業所名	グループホームゆとり		
所在地	三戸郡階上町蒼前東六丁目9-181		
自己評価作成日	平成26年11月10日	評価結果市町村受理日	平成27年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成26年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様の思いを汲み入れ、本人様のペースで生活できるように努めています。</li> <li>・午前中はラジオ体操や、座りながらできる体操等を行い、利用者様のできる範囲で行っています。</li> <li>・地域の行事にできるだけ参加するようにしています。</li> <li>・施設内では利用者様の誕生日会や外食行事を行って、利用者様の気分転換を図れるようにしています。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは主要道路から少し離れた住宅街に立地しており、ホーム内は手作りの装飾やホールにこたつが置いてある等、家庭的な雰囲気が感じられる。</p> <p>管理者及び職員は、利用者がホームでゆったりと過ごしていただくことを一番に考え、利用者の生活リズム、ペースに合わせたケアを心がけている。そのための取り組みとして、利用者とのコミュニケーションの他、2ヶ月に1回、利用者懇談会を開催し、利用者の食事や日常生活上の希望等を聞き取り、日々のケアに取り入れている。また、家族からもアンケートを実施することで、家族の意向も積極的に聞き取る取り組みを行っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者や職員は地域密着サービスの役割を理解し、地域の行事や町内会の活動に参加している。	利用者が安心して暮らせること、利用者の思いの尊重、地域とのふれあいを柱にしたホーム独自の理念を掲げている。管理者及び職員は、利用者が地域で安心して暮らせることを念頭に置き、日々の業務を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ほのぼのの交流会に参加したり、地区の夏祭りに参加している。	町内会に加入し、町内の花植え等に参加している他、ほのぼのの交流会や夏祭り等、町内の行事へ参加したり、踊りの訪問等を通じて交流を深めている。また、地域の小学校へ招待され、児童との交流も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事参加等を通じて、ある程度支援について地域に呼びかけているが、個人のプライバシーも考え、大々的にならないように配慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価、外部評価、家族アンケート、利用者懇談会のアンケート等を運営推進会議の場で報告や話し合いを行い、サービス向上のために意見を取り入れている。	運営推進会議は民生委員や町内会長、役場職員、利用者、家族等で構成されており、メンバーは会議の役割を理解し、積極的な参加が得られている。また、会議では外部評価結果の報告やホームの行事、避難訓練等、運営についての協議が行われており、出された意見を全職員で確認し、今後の方針について検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の入退居の状況の連絡を行っている。また、苦情等があった場合は報告し、アドバイスを受けている。	運営推進会議へ行政職員が参加している他、自己評価及び外部評価の結果を提出し、ホームの取り組み状況の周知に努めている。また、利用者の入退去の情報や、必要に応じて、利用者個別の相談を行う等、日頃から連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を委員会で行い、職員会議等で話し合っている。	法人内で組織される委員会では話し合いや研修が行われ、ホーム内でも伝達研修により理解を深めている他、ホーム内にも「身体拘束12項目」として掲示することで、実践の一助としている。また、やむを得ず身体拘束が必要な時は家族へ説明し、理由や方法、期間を明記した同意書を取り交わし、経過についても記録に残す体制が整備されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で虐待防止についての研修を行い、職員への教育を徹底している。また、不適切なケアについて各施設で取り上げ、話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で権利擁護に関する勉強会を計画し、実施する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にあたって、契約内容について説明し、理解をいただいてから、署名・捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置の他、毎年、定期的に家族アンケートを実施し、運営推進会議で公表、評価している。	面会時の聞き取りや年1回のアンケート調査等により、家族の意見の把握に努めている他、毎月、利用者の近況等について情報提供を行い、家族が意見や要望を出しやすいように配慮している。また、利用者とは日々のコミュニケーションの他、2ヶ月毎に利用者懇談会を開催し、希望や意向を聞き取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月実施し、職員からの意見や提案を聞いている。また、毎朝のミーティングでも意見があれば聞いている。	職員会議では行事等、ホーム運営について、職員と意見交換ができる体制となっている。また、出勤体制も利用者の予定や研修の他、職員の希望も取り入れられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や業務成績(無遅刻、無欠勤)により評価し、昇給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は年1回行っており、その機会に技術の確認も行っている。また、社外研修にも参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回、同業者同士で勉強会、意見交換会を開催している。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望があった時は、本人と面会を行い、心配な事や困っている事、要望等を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望があった時は、施設の見学をしていただき、困っている事や不安な事、要望等を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをする際に、利用者と家族の要望も聞き取りを行い、場合によっては他のサービスも勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	2ヶ月に1回、利用者懇談会を開催し、食事や入浴の要望を聞き、反映するようにしている。また、本人が望む生活を聞きながら、本人の思いに沿えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対する運営推進会議への参加の呼びかけや、利用者との面会を促し、安心して暮らせるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加したり、いつでも面会できるように呼びかけている。	馴染みの場所や人間関係は、入居時の聞き取りや利用者とのコミュニケーションで把握し、記録している。利用者の希望により、馴染みの人へ電話を取り次いだり、行きたい場合は家族へ協力を呼びかける等、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を理解し、孤立しないように職員が間に入って話を聞いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、サービスを終了した利用者にも関わり、相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のアセスメントの際、本人からの要望を聞き、できるだけ沿えるように支援している。	職員は利用者がこれまで生活してきた背景を理解し、尊重することで、希望や意向の把握に努めている。意向の把握が困難な利用者には、声かけによる反応や表情、仕草を観察している。また、利用者の意向については、利用者懇談会や毎月作成するアセスメント票を活用し、職員全体で把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居が決まった際に、これまでの生活環境や趣味等の把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェックを行い、心身の記録を行っている。また、ADLやIADLをチェックすることで残存機能を把握し、できる事は見守りながら日常生活を送ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、利用者や家族の意見は勿論のこと、利用者に関わる関係者の意見も反映できるようにしている。	毎月、利用者の意向や身体状況に変化がないか、アセスメント票にまとめており、その結果と家族の意向を合わせ、職員全体で話し合い、介護計画を作成している。また、実施期間中に利用者の状況に変化が生じた場合も、随時、見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録に利用者の気づいた事や変化があった時を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月のアセスメントの際、様子の変化や状態の変化があったことを職員同士で話し合っている。また、3ヶ月に1回、モニタリングを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できるだけ地域資源を活用できるように、ほのほの交流会に参加したり、地区の行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、主治医をかかりつけ医としている。また、医療と連携を図り、異常時は連携を図っている。	入居時に受診状況を把握し、入居後も主治医への受診を継続できるように支援している。他、歯科については協力病院との連携体制もある。受診結果は家族へ随時連絡し、家族が受診対応した場合でも結果を聞き取る等、情報の共有に努めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本社の訪問看護に相談等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の情報をいつでも受けられるように、病院と連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には家族の意向を尊重していく事を伝えている。	法人内で方針を定めており、入居時に家族へ説明している。重度化した場合は主治医、家族と話し合い、ホームでもできる限りの支援を行っている。また、研修会を開催し、職員全体で理解を深める取り組みも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を受ける等して、応急措置に対応できるようにしている。また、毎月、避難訓練も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の法定避難訓練と毎月の自主訓練は行っているが、地域の方の参加は得られていない。	年2回の法定避難訓練の他、ホーム独自に毎月夜間を想定した避難訓練を実施している。訓練には利用者も参加し、避難体制を確認しており、実施後は職員会議で反省を行っている。また、備蓄品については本部で管理され、必要時に運搬する体制となっている。	災害の程度によっては本部より備蓄品が届かない場合も想定されるため、備蓄品をホーム内に備えることで、ホームの災害対策を充実させることに期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のペースに合わせた対応を行っている。	利用者が希望することを尊重し、個々のペースに合わせた生活を送れるように支援している。職員が声がけ等、利用者にとって不適切な対応をした場合には、その都度、職員全体で話し合うことで改善に努めている。また、個人情報取り扱いについての研修会を開催し、理解を深める取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	2ヶ月に1回は利用者懇談会を開催し、利用者の思いを聞くようにしている。また、利用者から希望が出た時は、個別に話を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを重視して、個別に対応している。また、計画に反映できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服装は本人の好みに合わせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調に合わせて、配膳の手伝いや片付けを手伝ってもらっている。	食事は利用者の嗜好や身体状況によって献立を変える等、配慮を行っている。利用者懇談会で利用者より聞き取ったものを献立やおやつに加えながら、食事を楽しめる取り組みを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量と水分の記録を行っている。また、利用者に合わせて調理方法で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。また、自分で義歯を洗える利用者には、見守りをしながら行ってもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中はトイレ誘導を行っている。また、訴えがある時はその都度対応している。	排泄パターンを記録し、利用者のトイレ誘導を効果的に行うことにより、オムツをなるべく使用せず、自立に向けた支援に努めている。また、オムツの使用については家族とも相談し、経済面も含め、方向性を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や食事の工夫を行っている。また、3日以上排便がない時は職員間で情報を共有している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴日は決められているが、入浴の順番は利用者に確認しながら行っている。	入浴日は週2回としているが、利用者の状態や気分によって、入浴の順番は自由である。複数の利用者が入りたくない方や同性での介助を希望する方等、入浴時の配慮も行い、入浴を拒否する利用者にはタイミングを見計らいながら声がけを行う等、入浴してもらうように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自分の居室で休めるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのファイルに薬情報が付いていて、いつでも薬の情報が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のできる事を把握し、縫い物をしたり、おやつ作りを職員と一緒にしている。また、外食行事も行い、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者懇談会で利用者から出かけたい場所等を聞き、意向に沿えるようにしている。また、家族との外出にも支援している。	毎月の行事で外出する機会を設けている。外出先には利用者の希望も取り入れ、食事を伴う行事については、きざみ食やとろみ食の利用者にも配慮し、全員が出かけられるように努めている。また、不定期であるが、天気の良い日にドライブを楽しむこともある他、利用者個別の希望については、家族と調整し、希望が叶うよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は5,000円までとしている。それ以上の金額の所持については家族へ伝え、控えていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から申し出があった時は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内には季節感のある飾り付けを行い、変化をもたせている。また、共同の場所には利用者の作品を展示している。	ホーム内は手作りの装飾や掲示物により、家庭的な雰囲気が感じられ、ホールにはこたつがあり、利用者の憩いの場となっている。浴室は2名で入浴できる程広く、リフトも整備されているため、身体機能が低下している利用者も安心して利用できる他、トイレの場所が分かりやすい利用者のために、利用者と一緒に作ったトイレの標識を掲示している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食後はソファに座り、ゆっくりと寛いだり、絵本や新聞を読んでいる。また、皆で座れるように、時間を見て使用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、本人の好きな物を置いたり、使い慣れた物を持ってきてもらっている。	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうよう働きかけている。ベッドの位置を利用者の生活に合わせて変更する等、一緒に居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者と一緒にトイレの標識を作ったり、部屋の名前をそれぞれに付けている。		